

# CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

## 脂肪酸摂取、血清脂肪酸と認知機能 に関する栄養疫学研究

～DHA,EPA,アラキドン酸に注目した横断解析結果を中心に～

予防開発部 予防栄養研究室

大塚 礼 室長

平成 24 年 2 月 9 日(木) 午後 4 時 00 分～

研究所 2 階会議室

ドコサヘキサエン酸(DHA)やエイコサペンタエン酸(EPA)などの n-3 系多価不飽和脂肪酸摂取に加え、近年アラキドン酸(AA)などの n-6 系多価不飽和脂肪酸摂取も認知機能の維持や向上に関与する可能性が報告されつつある。

予防開発部予防栄養研究室では、食事摂取による認知機能低下予防を目指した栄養疫学研究として、栄養素の中でも特に脂肪酸に着目し、脂肪酸摂取量と認知機能に関連する研究を行っている。具体的には、予防開発部で実施されている地域在住一般住民を対象とした「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)」のデータを活用し(現在第7次調査を実施中)、脂肪酸摂取量と認知機能との関連を検討している。また第1次から第3次調査参加者の血清脂肪酸4分画(EPA, DHA, AA, ジホモ $\gamma$  リノレン酸)に加え、昨年、第5次調査参加者(2,209人)の血清脂肪酸全24分画の測定結果を把握したことにより、脂肪酸摂取量と認知機能との関連における血清脂肪酸の縦断変化を踏まえた上での考察が可能になった。

これまでの解析結果から、脂肪酸摂取が認知機能に関連する可能性を示唆する結果が得られつつあり、本報告会では、まずDHA,EPA,AAについての横断解析結果を中心に、これらの脂肪酸摂取、血清脂肪酸と認知機能に関する研究成果を報告し、今後の研究の方向性について発表を行う。